

ナント・マネジメント・スクール
日本で唯一の協定校が
新潟大学である。

1598年、「ナントの王令」
宗教戦争に終止符を打った『寛容の精神』に
思いを馳せる。

ナントの町と歴史と

経済学部経済学科助教授 西山 教行

ナント市はフランス共和国の首都パリより南西に383キロ、TGVにて一時間半あまりで到着する。ロワール川下流に位置する、交通や経済の要衝である。フランスの多く

とユダヤ教の対立があらたな社会問題として顕在化してきた。

フランスは20世紀の半ばから、イスラームを奉ずるフランス植民地帝国のアラブ人を移民労働者として呼び寄せてきた。ところが、中東でパレスチナ問題が行き詰まり、武力衝突が発生するや、アラブ系移民とユダヤ系フランス人は、それぞれパレスチナ側、イスラエル側の支持勢力として大義を唱え、しばしばフランス国内における事件として社会問題化する。より正確に言えば、フランスにおいて社会的弱者の立場にあるアラブ系移民の若者などが、日頃の鬱積をパレスチナでの衝突に重ね合わせて、シナゴーク(ユダヤ教の会堂)や教育施設への襲撃として表面化するのだ。この意味で、フランスにとってパレスチナ問題は決して対岸の火事ではない。フランスがあらたに抱えざるを得なくなった20世紀の国内社会問題である。改めて、ナントの王令のうたった寛容の精神に思いを馳せてしまう。

またナントの町の繁栄が、17世紀より19世紀まで行われてきた「三角貿易」という名の奴隷売買にもとづいたことも忘れがたい。フランスは1998年に奴隷制廃止150周年を祝福したが、奴隷の記憶は廃止できるものではない。当時のナント奴隷市場は現在、優美なアーケードへと変容し、最新流行の競演する空間となり、時代の変遷を実感することができる。市の中心部を散策すると、思いのほか貴金属店が多いことに気づく。これもまた三角貿易によって、新

日本海 太平洋、ウラル山脈を越えて
教育研究の交流が始まっていくだろう

の町のように、ナントも歴史に恵まれており、その起源はローマ時代にさかのぼる。ローマ帝国の洗礼を受けた後に、中世にはブルターニュ公国の中心都市として繁栄をきわめたが、ナントの名前を後世に刻みこんだ事跡は、なかでも1598年の「ナントの王令」である。

16世紀のフランスはカトリックとプロテスタントが骨肉を争う宗教戦争に明け暮れていたが、その争いに終止符を打ったのがアンリ四世である。アンリ四世はこの王令によりプロテスタントの権利を認め、フランスに宗教的寛容を実現した。しかし、この王令は歴史的記憶に輝いているだけではない。これは現代社会においても宗教的寛容の重要性を呼びさますものである。

今日のフランス社会において、カトリックとプロテスタントの対立抗争はすっかり解消し、相互承認はエキュメニズム(教会一致運動)として結実を見せている。それにかわり、移民の流入によってイスラーム



学内に設置された噴水はフランスのエスプリを感じさせる。

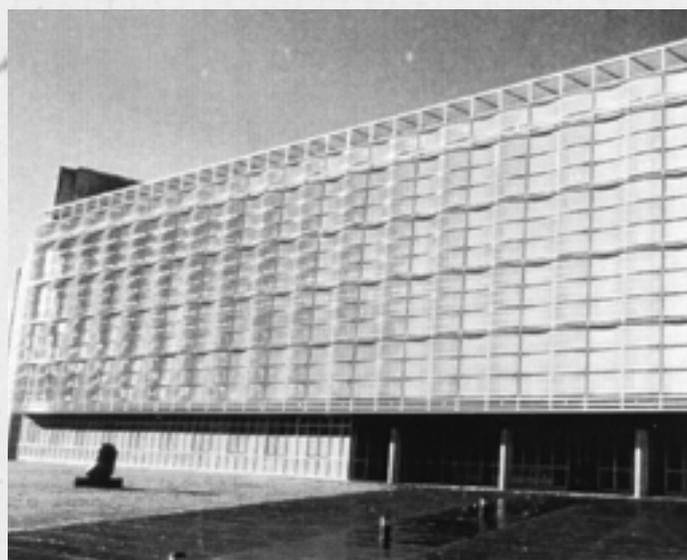


学生の知的活動の拠点
となるメディアラック
(図書館)。



ンゼーコールの特色の一つはその国際性にある。学生定員の20%を外国人学生が占め、協定校は世界20カ国で60校に及ぶ。イギリス、スペインの大学との提携に基づき、各国の大学でそれぞれ一年間の学生生活を送るコースもある。三言語を使う、ヨーロッパ人ビジネスマンの養成を目指すプログラムである。

ナント・マネジメント・スクールにとって、新潟大学は日本で唯一の協定校であり、近い将来にはフランス大学生が五十嵐キャンパスに学ぶ日も訪れるだろう。ちなみに新潟市は、新潟フランス協会の尽力もあって、ナント市と交流協定を結んでいる。その意味で、交流は行政や、大学、また市民レベルなど様々な場に展開することだろう。さらに経済学部は協定校締結に引き続き、学生交流協定も準備しており(九月に締結予定)、本学の学生がナントに学ぶ日も遠からず訪れるだろう。これからは日本海から大西洋へと、ウラル山脈を越えて教育研究を目指す学生が次々に現れることを願ってやまない。



斬新なデザインの正面玄関。

大陸のエルドラド(理想郷)から収奪した黄金が現在も街に眠るあかしだろうか、富に身をまかせた男たちの夢に

第三セクター型の大学院大学 ナント・マネジメント・スクールと交流協定

身をゆだねるひとときであった。

ところで、今回のナント訪問は、歴史の夢にひたるためではない。本学の経済学部は2001年1月1日をもって、ナント・マネジメント・スクールと交流協定を締結した。今回の探訪はその交渉を目的とするものであった。

ここでナント・マネジメント・スクールの紹介に移りたい。フランスの学制は日本と異なり、高等教育が二つの系列から編成されている。一つは国家が運営し、バカロレアの成績にしたがって入学できる大学と、もう片方は高校卒業後に二年間の準備学級を経て入学試験により選ばれるグランゼコールである。グランゼコールには、官庁が直接に経営し、学生を準公務員として処遇するところもあれば、私立経営の学校もある。ナント・マネジメント・スクールは、ナント市商工会議所とナント市が共同出資している第三セクター型の大学院大学であり、昨年10月に創立100周年を迎えた、フランス屈指の伝統校である。

キャンパスは町の中心街よりトラム(路面電車)で20分ほどの閑静な文教地区に位置し、ナント国立大学など幾多の教育研究組織が連なる大学街の一角にある。ここに専任教員44名を配し、1000名規模の学生数を誇るキャンパスが位置する。キャンパスには、フランスらしい斬新な建築が教育研究の場を提供している。校舎を飾る噴水も、訪れる人々の目をなごませ、やすらぎを与えてくれる。このグラ